

KFE形 ポンパー 施工上のお願い

1. 搬入・据付け

- (1) 修理・点検ができるよう、本製品の周囲上面ともに 30 cm以上のスペースが確保できる場所、凹凸のない水平な場所に据付けてください。
- (2) 水平に据付け、基礎ボルトでしっかりと固定してください。(基礎ボルトは別途お買い求めください。)
基礎が水平でなく凹凸があると、ベースがねじれ、故障の原因になります。
- (3) ポンプを吊り上げて運ぶ場合は、ベースの吊り上げ用穴(4ヶ所)に、シャックルなどを掛けて 4 本吊りしてください。
(ポンプへの接触の可能性があるため、当て木やナイロンスリング等をご使用ください。)
- (4) 振動が問題となる場合は防振架台の設置をお勧めします。
- (5) 凍結防止のため、配管には保温材を使用して保温を実施してください。また、ポンプにはヒータを取り付けることをお勧めします。

2. 配管施工

- (1) 配管の荷重が直接ポンプにかからないように、防振継手および配管支えを設置し支持してください。
- (2) 管継手類は十分に締め付け、空気の吸込みや水漏れのないようにしてください。
- (3) 漏水しても排水が十分できるように排水溝を設ける等、排水の配慮をしてください。
- (4) 吸込配管はできるだけ短く、曲げる箇所を少なくしてください。また、吸込配管は各々設け、途中で合流させないでください。
- (5) 吸込配管への異物、砂等の混入が考えられる場合は、ストレーナ、砂こし器を取り付けてください。
- (6) 地下水槽からの吸上げにて使用する場合
 - ・吸込配管の末端は管径(D)の 2 倍の長さ以上深くし、地下水槽の底面および側面から 2 D以上離してください。
 - ・吸込配管の末端にはフート弁を取り付けてください。
 - ・吸込配管内に空気溜まりができないように、ポンプに向かって上り勾配(1 / 100 以上)を付けてください。
 - ・吸込配管にはスルース弁を設けないでください。
 - ・チェック弁のバイパス弁を反時計方向に 2 回緩めて、各々の吸込配管に正圧がかかるようにしてください。
また、フート弁からの漏れがないか確認してください。
- (7) 受水槽からの流込みにて使用する場合
 - ・メンテナンス用に、吸込口の近くにスルース弁を設置してください。
 - ・受水槽の保守点検スペース確保のため、受水槽とポンプの距離が 60 cm以上となるように施工ください。
- (8) 吐出し配管について
 - ・メンテナンス用に、吐出し口の近くにスルース弁を設置してください。
 - ・メンテナンス用に、試験用配管の設置をお勧めします。
 - ・吐出し配管途中の空気の溜まる場所には、空気抜きコックまたは自動排気弁を取り付けてください。
- (9) ポンプカバー取付上の注意
 - ・ポンプに直接防振継手を取り付ける場合に、ポンプカバーと干渉する場合があります。その際は、ポンプと防振継手の間に短管(15 cm以上)を取り付けてください。